

## 自己点検・自己評価

### 《評価とその内容》

- 5:達成している      4:ほぼ達成している      3:どちらともいえない  
2:取り組みを検討中      1:改善が必要

### 1. 教育理念・目的等

1	理念・目的・育成人材像は定められているか	4.5
2	育成人材像は各学科の関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4.3
3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3.9
4	学校の将来構想を抱いているか	4.0

#### 〈現状と課題〉

教育理念・目的・育成人材像等は明確に定められている。校訓に基づき、社会や福祉に必要なとされる人材を育成するため、今後も全教職員が連携協働し教育活動に取り組まなければならない。

### 2. 学校運営

5	法人の組織運営を適切に行っているか	4.0
6	学校運営のための組織を整備しているか	4.1
7	意思決定システムを整備しているか	3.6
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.4

#### 〈現状と課題〉

学校運営については、各学科の担任、教員の連携協働のもと情報を共有し、学生の質や学習効果を高めようとしている。

業務の効率化についてはやや不備のところがあ、今後の課題となっている。

### 3. 教育活動

9	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4.6
10	学科ごとに修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4.5
11	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4.5
12	シラバス（授業計画書）は学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致しているか。	4.6
13	授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。	4.4
14	未履修科目の原因分析を教員側と学生側とで実施し、対応策を講じているか。	4.2
15	学生に修了認定のための評価基準と方法を公開しており、かつ、評価が公平性・妥当性が保たれているか。	4.5

16	実習目標に沿った施設の選択及び学習環境・指導体制が整っているか	4.4
17	実習指導者と教員の役割を明確にしているとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えているか。	4.4
18	実習において、学生が関係したインシデント等を把握・分析しているとともに、改善策を講じているか。	4.5
19	成績評価・修了認定基準を明確化し、適正に運用しているか	4.7
20	資格・免許取得の指導体制はあるか	4.7
21	資格・要件を備えた教員を確保しているか	4.5
22	教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	4.2
23	教職の組織体制を整備しているか	4.0

#### 〈現状と課題〉

教育理念に沿った教育が行われ、様々な学生がいる中で、その習熟度に合わせた指導が行われている。専門学校として、職業人の育成、そして仕事をする上で必要となる資格の取得には特に力を入れている。

実習に関しては、学生が不安を抱かず実習に行けるよう事前学習を大切にしている。また実習中も実習指導者と密に連絡を取り合っている。

#### 4. 学生支援

24	進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4.0
25	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4.2
26	退学率の低減が図られているか	4.2
27	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4.5
28	保護者と適切に連携しているか	4.4
29	卒業生への支援体制はあるか	3.8
30	(日本語科) 日本を理解するための支援が適切に行われているか	4.2
31	(日本語科) 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4.4
32	(日本語科) 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	4.5

#### 〈現状と課題〉

担任制をとっており、日々学生の状況を把握し、学業指導、生活指導など卒業に至るまで、さまざまな相談に対応している。

#### 5. 学習成果

33	就職率の向上が図られているか	4.3
34	資格・免許取得率の向上が図られているか	4.4
35	卒業生の社会的評価を把握しているか	3.8

### 〈現状と課題〉

資格の取得率については、学生の学習意欲の向上が図られていることから高い水準を保っている。就職指導もきちんと行われている。

国家試験合格に向けて学習習慣をつけ、資格、免許取得率は大変高い。

## 6. 教育環境

36	教育上の必要性に対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3.9
37	防災に対する組織体制を整備し、適切に運営しているか	4.0
38	学内における安全管理体制を整備し、適切に適用しているか	4.0

### 〈現状と課題〉

教育上に必要な施設・設備・用具等は整っている。老朽化しているものについては、教員・学生とも、物を大切に扱うことを意識し、整備を行っている。

## 7. 学生募集活動

39	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4.5
40	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	4.3
41	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4.5
42	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4.4
43	入学辞退者に対し授業料等について適切な取り扱いを行っているか	4.6

### 〈現状と課題〉

学生募集に関しては積極的に行っている一方で、効果に関しては高める必要がある。福祉専門学校への進学者が減少している中、教員が現場に行き、福祉の魅力を伝え、募集活動を展開している。今後も広報部を中心に全職員が一丸となって学生募集を行う。

## 8. 財務

44	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.8
45	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4.0
46	財務について会計監査が適正に行われているか	4.2
47	財務情報公開の体制整備はできているか	4.2

### 〈現状と課題〉

学生数が充足しておらず、必然的に財務は安定しているとは言い難い。より一層の学生募集活動によって安定した財政基盤となるよう取り組まなければならない。

## 9. 法令等の遵守

48	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.5
49	個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	4.5
50	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に務めているか	4.3
51	自己点検・自己評価結果を公開しているか	4.4
52	関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	5.0

### 〈現状と課題〉

法令の遵守、個人情報の管理、保護は徹底して行っている。学校職員の意識向上にも取り組んでいる。

## 10. 社会貢献

53	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3.7
54	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	3.9

### 〈現状と課題〉

学校の施設を活用した社会貢献については、対策講座を実施している。一般の人にも受講の機会を設けている。

学生のボランティアに関しては、コロナ禍の中、奨励に課題もあり、活動は縮小傾向にあるが、福祉に携わる学校として社会貢献ができるよう、今後の状況や変化に合わせて、取り組みを検討しなければならない。

令和4年度 広島福祉専門学校  
学校関係者評価報告書

1. 学園建学の精神

学校法人中川学園は、『愛と信念』の校訓の下に、福祉教育を実践する教育機関である。  
学生・生徒に対する教育方針は、『1. 愛情、2. 厳正、3. 信頼』である。すなわち、  
教職員は惜しめない愛情をもって生徒に接し、正しいことは妥協せず厳しさをもって教  
え、それによって教職員と学生・生徒との間に信頼関係が芽生える教育を目標としている。

2. 広島福祉専門学校の目標

中国四国地方では最も伝統のある職業教育専門校として、「愛と信念」の校訓の下、思  
いやりに満ちた福祉専門職を養成し、もって地域福祉に貢献することを目的とする。

3. 学校自己点検・自己評価報告書について

評価は1～5点で、

5：適切、4：やや適切、3：どちらともいえない、2：やや不適切、1：不適切

学校自己点検・ 自己評価報告基準	学校自己点検・自己評価報告基準についての評価点の平均		
	自己評価の 結果が適切か	改善に向けた 取り組みが適切か	今後の改善方策が 適切か
1. 教育理念・目的等	3.0	4.6	3.6
2. 学校運営	3.8	4.0	2.8
3. 教育活動	3.8	4.8	5.0
4. 学生支援	4.6	4.8	4.2
5. 学習成果	3.6	3.0	3.0
6. 教育環境	3.0	3.0	3.0
7. 学生募集活動	3.0	3.0	3.0
8. 財務	2.6	3.0	3.0
9. 法令等の遵守	5.0	5.0	4.2
10. 社会貢献	4.2	3.4	3.0

#### 4. 講評

学生募集活動の項目を含め、すべての項目で自己評価が高い。その他、特に高いのが教育活動と学生支援、学生法令遵守である。多少低いのは教育環境と社会貢献である。すなわち、自己評価では多くの教職員が満足いく結果であると考えているようである。しかし、現状では学生募集の成果を認めることができない状態であり、そこには大きな乖離がある。

学校の力は学生の数である。何を評価するにも、まず学生がいなければ学校は成り立たないので、学生募集では定員は必ず集めるということが大切である。その点から考えると、今回の自己点検、自己評価は少なくとも成果をもとにはされていないと考えられる。定員に対する充足率を上げてこそ評価の対象となるので、目標を定め、学生募集活動に奔走しなければならない。

また、この点検・評価について今一度理解し、自らの責務を正しく把握し、努力を重ね、プロフェッショナルとして成果に基づいて評価を行うことを望む。

今後も学園の建学の精神を根底に、教職員が一丸となって広島福祉専門学校の目的達成することを願う。

以上